

2022年3月29日

報道機関 各位

長崎大学教育学部附属小学校及び、中学校で行われた 県内初のオンライン授業の報告書を公開 ～子どもたちの学びを止めないために～

長崎大学教育学部附属小学校及び、中学校は令和3年度の夏休み明けに、県内初の試みとなる在宅オンライン授業を行いました。令和3年9月1日～9月6日までの4日間に渡り行われたオンライン授業に関して、児童・生徒、保護者、教員らへのアンケート調査やインタビュー調査を行った結果から、オンライン授業の成果や今後に向けた課題を明らかにし、報告書としてまとめました。（概要は別紙参照）

本研究報告書は、これからの学校教育における、オンライン授業の発展の一助となることを期待し、令和4年3月18日（金）付けで長崎県の各教育委員会（長崎県教育委員会、県内各市町教育委員会）や各教育機関（長崎県教育センター、佐世保市教育センター、長崎市教育研究所）へ送付、本日3月29日（火）のプレスリリースをもって長崎大学のHP上で公開を開始しました。

「附属学校オンライン授業実施に伴う調査研究報告書」は下記 URL からご覧いただけます。

[20220328_1.pdf \(nagasaki-u.ac.jp\)](https://www.nagasaki-u.ac.jp/20220328_1.pdf)

【本リリースに関するお問い合わせ先】

前原由喜夫准教授（長崎大学教育学部 専門：教育心理学）

Mail : ymaehara@nagasaki-u.ac.jp

TEL : 095-819-2386（研究室）

※研究室でオンライン授業の撮影や Web 会議などを行ったりすることが多いので、研究室の電話を OFF にしている時間帯が長く、研究室の電話には出ないことが多いです。

【別紙】

「附属学校オンライン授業実施に伴う調査研究報告書」概要

児童・生徒へのアンケート結果を統計的に分析した結果からは、子どもたちの発達段階によってオンライン授業へのモチベーションを向上させる要因が異なることが実証されました。保護者を対象としたアンケート調査からは、家庭のインターネット環境の格差が明らかとなり、特に低学年の児童に対しては家庭での保護者による指導の負担が大きくなることも示唆されました。教員を対象としたアンケート調査からは、対面授業と同等に授業目標を達成できる一方で、オンラインでは実施に不向きな教科や内容があること、およびペアやグループ活動などの学習形態に関する課題が浮き彫りになりました。

他にも、教育実習生に対するアンケート調査や、校長や教頭ら学校管理職に対するインタビュー調査に関する分析結果も掲載しています。

また、オンライン授業初導入まで1週間という短い準備期間の中、実際の学校現場で使用された会議資料や、保護者向けの案内資料、オンライン授業を受ける生徒のために作られた「オンライン授業のしおり」など、貴重な資料を掲載しています。

これからの学校における、真に学習効果のあるオンライン授業を考察するヒントになる報告書ですので、ぜひご一読いただき、広く周知いただけますと幸いです。

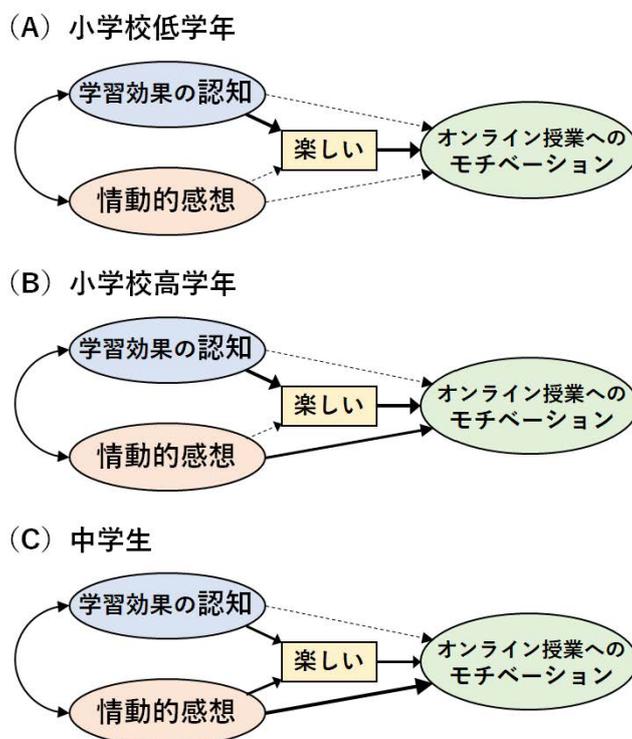


図 14. 経験から期待への影響の発達の变化（実線が影響あり、点線が影響なし）

※「児童・生徒へのアンケート結果」に関する分析の一部を抜粋（研究報告書 P 2 1 より）